

日本水大賞
10周年

五泉トゲソの会 農水大臣賞

絶滅危惧種の淡水魚、を知った市内のまちづく
イバラトミヨ（通称トゲソ）の保護活動に取り組むNPO法人「五泉トゲソの会」が、水環境の向上に尽力した団体・個人に贈られる日本水大賞（日本河川協会主催）の、6年には「NPO法人五泉トゲソの会」と改称し、

生息調査や観察 20年余

児童にも力 担い手学習

現在に至る。同会では20年以上、住民に向けたトゲソの観察会や生息数の調査に励んできた実績のほか、近年では市内の小学生を対象に、持続可能な開発のための教育（ESD）に取り組んできたことをポイントに、日本水大賞に応募した。日本水大賞は今回で21回目。全国から137件の応募があり、大賞など計11組が選ばれた。トゲソの会の受賞について、日本河川協会は「トゲソやきれいな水の保全活動など、地域社会貢献につながる取り組みとして高く評価できる」としている。

「臣賞」に選ばれた。同協会によると県内の団体の受賞は3例目で、農水大臣賞は初。長年にわたりトゲソの保護活動や、地元の小中学生を対象とした環境学習活動を行ってきた実績が高く評価された。

トゲソは五泉市などに生息する4〜6センチの小さな淡水魚。きれいな湧き水が出る小川などに生息していることから、清流のシンボルとされている。

五泉トゲソの会は、1996年、同市の河川でトゲソが発見されたこと



トゲソの会が、ESD活動の一環で毎年開いている学習会＝6日、五泉市

10年以上会員として活動に携わってきた谷口良さん（74）は「とてもうれしい。とにかく地道にやってきたことを評価してもらえた」と喜ぶ。

トゲソの会理事長の中村吉則さん（71）は「長年の取り組みを認めてもらえた。今後は子どもたちにも環境を担う当事者だ」という意識を投げかけていきたい」と意気込んだ。

表彰式と活動発表会は、25日に東京都江東区の日本科学未来館で行われる。